

沖縄県工業技術センターにおける企業との共同研究や連携の成果事例などを発表します。

第1部

発表時間	テーマ名	担当者(○発表者)	概要紹介
1 10:30 ～10:45 (15分)	ヘルムホルツ共鳴型吸音パネルの設計支援	○泉川 達哉(工業技術センター)	ヘルムホルツ共鳴型吸音パネルは、四角い箱の一面に無数の穴を設けた単純な構造ですが、吸音したい音の周波数が明確な場合は大きな効果が期待できます。本事例ではタレットパンチと破碎機について騒音対策を行った内容を紹介します。
2 10:45 ～11:00 (15分)	瓶ホルダーの試作及びコスト計算～飲料用瓶の効果的洗浄を実現するための装置開発～	○棚原 靖 ¹ 、照屋 駿 ¹ 、山内 章広 ¹ 、前田 一也 ² 、小波津 隆二 ³ (¹ 工業技術センター、 ² ブルーイングテクノロジー株式会社、 ³ 株式会社フロンティアウエーブ)	県内ボトル工場向けの小型で低価格な瓶洗浄装置の開発を目的に、装置で使用する瓶ホルダーについて、代表的な瓶種の形状データを基にした瓶ホルダーの設計手法と製造コストやカスタマイズ性の観点から、光造型機を活用した製造方法を紹介します。
3 11:00 ～11:15 (15分)	生物素材ライブラリを用いたタンパク質糖化阻害活性のスクリーニング	○荻 貴之、松本 亜里奈、北川 由紀子、丸山 進(工業技術センター)	タンパク質糖化はグルコース等により非酵素的に進行し加齢性疾患の進行に関連しています。当センター保有の生物試料を対象にタンパク質糖化を抑制する素材のスクリーニングを行いましたので、その結果を紹介します。
4 11:15 ～11:30 (15分)	沖縄県産テリハボクの機能性に関する研究	○松本 亜里奈 ¹ 、荻 貴之 ¹ 、Idam Hermawan ¹ 、世嘉良 宏斗 ¹ 、宇佐美 徹 ² (¹ 工業技術センター、 ² 株式会社すまエコ)	テリハボクの種子油は、抗菌、創傷治療作用など皮膚における有用な作用を持つことが知られています。本研究では沖縄産テリハボクの抽出液について、抗菌活性やタンパク質糖化阻害作用などの機能性を評価した内容を紹介します。
5 11:30 ～11:45 (15分)	沖縄豆腐製造の衛生管理～器具類の洗浄方法の検証	○望月 智代、豊川 哲也、金城 朱理(工業技術センター)	沖縄豆腐製造の衛生管理では、成型工程以降における二次汚染防止が重要で、そのためには器具類の洗浄を的確に行う必要があります。そこで、加工に用いる器具類に関し、効果のある洗浄方法の検討について紹介します。

第2部(環境関連)

発表時間	テーマ名	担当者(○発表者)	概要紹介
1 15:10 ～15:30 (20分)	自動車廃ガラスを活用した高付加価値リサイクル製品の開発	○赤嶺 公一 ¹ 、宮城 雄二 ¹ 、○下里 祐介 ² (¹ 工業技術センター、 ² 拓南商事株式会社)	廃棄物を削減することは循環型社会構築において重要です。拓南商事(株)では自動車リサイクルを実施しており、本研究では自動車の「サイドガラス」について赤瓦や琉球ガラス等の再生原料としての利用を目指す取組を紹介します。
2 15:30 ～15:50 (20分)	小型メタン発酵槽の開発	○中村 英二郎 ¹ 、吉元 弘 ² (¹ 工業技術センター、 ² バイオ畜産研究合同会社)	「廃棄物処理でメタンガスを発生させる」小型メタン発酵槽を用いて県内の有機系廃棄物の処理を行い、さらに発生する再生可能エネルギーであるバイオガスの有効活用を図る取り組みについて紹介します。
3 15:50 ～16:10 (20分)	微生物機能を活用した資源利用の可能性	○世嘉良 宏斗(工業技術センター)	好アルカリ性細菌は高pH条件で培養することによって雑菌汚染を抑制することができるため発酵管理が容易です。沖縄で分離された好アルカリ性細菌を用いて県産バイオマスから有価物を発酵生産する事例を紹介します。
4 16:10 ～16:30 (20分)	未利用食品資源の有効活用事例紹介	○比嘉 賢一(工業技術センター)	工業技術センターの食品や化学分野における未利用資源の活用を目的として行った研究の紹介や県内企業からの技術相談の中から共同で製品開発を行った技術支援事例の紹介をします。